

[06] 形態よりみたカキ(*Diospyros kaki* L.f.) の品 種分化に関する研究

白石, 眞一

土師, 岳

若菜, 章

<https://doi.org/10.15017/13932>

出版情報 : 九州大学農学部農場報告. 6, pp.1-58, 1991-09-25. 九州大学農学部附属農場
バージョン :
権利関係 :

引用文献

- 遠藤融郎. 1983. 農業技術体系果樹編第4巻 カキ 基礎編. p.91. 農山漁村文化協会. 東京.
- 羽島信吉. 1927. 久保柿に於ける種子の形成が果実の形質に及ぼす影響に就て. 農業及園芸. 2(3): 19-34.
- 広島県果樹試験場. 1979. 昭和53年度種苗特性分類調査報告書(カキ).
- HUME, H.H. 1914. A Kaki classification. J.Hered. 5: 400-406.
- 池田 勇・山田昌彦・栗原昭夫・西田光夫. 1985. カキの甘渋の遺伝. 園学雑. 54: 39-45.
- 池上隆雄. 1964. 栽培柿の起源に関する形態学的研究. 大阪学芸大学紀要. B-13: 151-202.
- 伊藤三郎. 1962. カキタンニンの化学的研究. 園試報. B-1: 1-16.
- 梶浦 実・河原 清. 1934. 柿の蒂すき及果頂裂果と品種との関係. 園学雑. 5: 129-132.
- 梶浦 実. 1934. 柿の *Metaxenia* に関する研究 I. 果実の大きさに及ぼす花粉の直接影響. 園学雑. 5: 259-271.
- 梶浦 実. 1946. カキの品種とその品種改良. 育種と農芸. 1: 86-89.
- 康 順變. 弦間 洋. 1990. カキ品種の子房及び果実表面にみられる毛じの形態学的研究. 園学雑 59 別 1. 108-109.
- 掛下勤次郎. 1930. 二三果実の貯蔵及び成熟過程中に於けるアセトアルデヒド及びアルコール量の消長. 農及園 5: 1151-1161.
- 菊池秋雄. 1948. 果樹園芸学上巻. 果樹種類各論. p.347-400. 養賢堂. 東京.
- 木村光雄. 1951. 柿編. p.27-p.32. 養賢堂. 東京.
- 北川博敏. 1969. カキの脱渋および貯蔵に関する研究(第5報) 温湯脱渋中に生ずるアセトアルデヒドと渋味消失との関係. 園学雑. 37: 379-382.
- 町田 裕・小崎 格. 1975. ニホンナシ育種における果実品質の数量的研究(第1報) 既存品種集団の統計的考察. 園学雑. 44: 235-240.
- MAKINO, T. 1908. Observations of the Flora of Japan. Bot. Mag. (Tokyo). 22: 159.
- 牧野富太郎. 1961. 牧野新日本植物図鑑. 北隆館. p.481.
- 森 英男. 1953. 落葉果樹(桃・日本梨・柿)の主要形質の遺伝に関する研究. 農技研報E(園芸). 2: 1-63.
- 永井計三. 1928. 柿の分類諸式. 園芸の研究. 23: 196-201.
- 中村怜之輔. 1973. カキ果実の脱渋機構に関する一考察(II) カキ果実のアセトアルデヒド含量, エタノール含量およびアルコール脱水素酵素活性の品種間差異. 日本食品工業学会誌. 20(11): 529-536.
- NAMIKAWA, I. and HIGASHI, M. 1928. On the number of chromosome in *Diospyros kaki*. and *D.lotus*. Bot. Mag. (Tokyo) 42: 436-438.
- NG, F.S.P. 1978. *Diospyros roxburghii* and the origin of *Diospyros kaki*. Malaysian Forester. 41: 43-50.
- 西元和男・福井博一・中村三夫. 1989. *in vitro* での形質を用いた多変量解析によるカキ品種の分類一

ゼアチナー. 園学雑 58 別. 1:44-45.

農商務省農事試験場. 1912. 柿の品種に関する調査. 農事試験場特別報告 28 号. 大井次三郎. 1965. 日本植物誌顕花編 (改定新版). 至文堂 p.1069-1070.

M. Somego. 1978. Chromosome number of *Diospyros roxburghii*. *Malaysian Forester*. 41: 51-52.

杉浦 明・米森敬三・原田 久・苜名 孝. 1979. カキ果実のエタノールおよびアセトアルデヒド含量の消長と自然脱渋との関係について. 園芸学研究集録. 9:41-47.

杉浦 明. 1983. カキの起源と品種分化. 育種学最近の進歩第 25 集:30-37.

Sugiura, A. and R. Tao. 1988. Distinguishing between Japanese persimon cultivars (*Diospyros kaki* L.) by means of pollen isozymes. *Soc. Hori. Sci.* 36 (1988): 67-77.

田崎桂一郎・松岡仲助. 1924. 柿の脱渋に関する研究. 農学会報:113-132.

山田昌彦・栗原昭夫. 1984. カキ交雑育種法の改良に関する研究 I カキ交雑実生集団における果実形質の Repeatability について. 果樹試報. 5:1-8.

山田昌彦・山根弘康・平林利郎. 1985. カキ交雑育種法の改良に関する研究. V へたすきの変異の特徴と大きさについて. 果樹試報. E 6:21-30.

山田昌彦・山根弘康・平林利郎. 1986. カキ交雑育種法の改良に関する研究 III カキ第 3 次育種試験に供試された pollination constant の甘ガキの品種集団における果実形質の遺伝および環境変異. 果樹試報. E 6:1-10.

YAMADA, M., H. YAMANE and T. HIRABAYASHI. 1987. Yearly fluctuations of two types of fruit cracking in seedling populations of Japanese persimmon (*Diospyros kaki* Thunb.). *J. Japan. Soc. Hort. Sci.* 54: 287-292.

山田昌彦・池田 勇・山根弘康・平林利郎. 1988. カキのへたすきと果頂裂果の遺伝. 園学雑. 57(1): 8-16.

米森敬三・松島二良. 1983. 甘ガキと渋ガキのタンニン物質の化学的特性, 特に超遠心分離における挙動の差異について. 園学雑. 53(2):121-126.

米森敬三・松島二良. 1985. カキ果実タンニンのタンニン細胞の発育過程と自然脱渋との関係について. 園学雑. 54:201-208.

Yonemori, k. and J. Matsushima. 1987. Changes in tannin cell morphology with growth and development of Japanese persimmon fruit. *J. Amer. Soc. Hort. Sci.* 112: 818-821.

庄 東紅・北島 宣・石田雅士・傍島善次. 1987. カキ品種 'ナガラ' 果実表面の形態的特性並びに染色体数について. 園学要旨. 昭 62 秋:134-135.

庄 東紅・北島 宣・石田雅士. 傍島善次. 1990. 栽培カキの染色体数について. 園学雑. 59(2): 289-297.